

かほく市立高松中学校 学校便り 《校訓》「責任を果たせ 自主・協同・奉仕」

さわやか



第10号 令和8年2月2日発行

校長 塚田 秀和

□ 「あいさつ」の効能

2月全校集会での話です。現在、本校の1、2年生は「高中SDP (Start Dush Project)」として、本校伝統三項目の一つ「あいさつ」に取り組んでいます。

朝「おはよう」と言われると、ちょっと気分がよくなることはないでしょうか。実は「あいさつ」には思っている以上の力があります。そこで、今月のテーマは「あいさつの効能」とし、「あいさつ」について私の思いを話しました。

私の1日は、朝、生徒玄関に立つことから始まります。顔を見て、会釈をして、自分から「あいさつ」することを心がけています。「あいさつもろくにできない」という言葉があるように、「あいさつ」は常識ある社会人として求められる人間力です。中学生の頃から当然のこととして、身につけてほしいと思い、玄関に立っています。

効能 その1 心のスイッチが入る

「あいさつ」をすると、頭と心が「よし、始めよう」と切り替わります。眠かった気持ちや、もやもやした気分も、声に出すことで前向きになります。

効能 その2 人の距離を縮める

「あいさつ」は、相手に向けた「あなたを大切に思っています」というサインです。たった一言でも、言葉を交わすことで、友だちや先生との関係が近づきます。

効能 その3 トラブルを減らす

「あいさつ」ができるいるクラスや学校は、雰囲気がやわらかくなります。お互いを知っている安心感が、いじめや誤解を防いでくれます。

効能 その4 自分が成長する

自分から「あいさつ」するのは、ちょっと勇気がいります。でも、その一歩を踏み出すたびに、度胸や自信が少しづつ身についていきます。

この**4つの効能**を考えると、「あいさつ」は、相手のためだけでなく自分のための言葉です。今日の「おはよう」が、明日の人間関係や自分自身を変えるかもしれません。まずは、笑顔で一言。それが、学校生活を気持ちよくする第一歩です。「あいさつ」には、人の気持ちを少し持ち上げる力があります。大きな言葉はいりません。ただ一言でいいのです。そして「あいさつ」の不思議なところは、言われた人だけでなく、言った自分の気持ちも前向きにすることです。声に出すことで、心が「よし、今日もやってみよう」と動き出します。

「あいさつ」は、すぐに結果が出る行動ではありませんが、続けた分だけ、誰かの心に静かに残ります。

□ 生徒総会[1月20日(火)]より テーマは、「人の関わりの中で大切なこと」

前半は、生徒会執行部、専門委員会の活動報告が行われ、後半は、各クラスで討議された「理想のクラスと、そのクラスを目指す取組」の発表と、「人の関わりの中で大切なこと」について全校生徒で話し合いました。大勢の生徒の前でも多くの手が挙がり、堂々と意見を述べてくれました。とても勇気のある行動でした。

今後も一人一人の小さな実践が積み重なり大きな実践となり、高松中学校は、さらに成長すると感じた生徒総会でした。

